

オンラインバイタルモニタリング分科会

1. 活動の目的

1) 人工呼吸器をはじめとする医療機器は、機器情報の外部伝送や二重チェックが未だ十分にできない危機的状況がある。このため院内や在宅でのトラブルが生じ、不幸な転帰を伴う事例が増加している。この解決には、安全性を最優先し、発生アラーム情報などの外部配信を共有化するための新たなテレモニタリングシステムの開発及び運用が必須である。本委員会では、各国医療機器メーカーの協力のもと医療機器の情報を ICT により外部伝送を行うオンラインバイタルモニタリングシステムの開発と運用方法を構築し、安全性の向上と事故の軽減、医療スタッフや介護者の負担・ストレス軽減の実現を目指す。

2) 患者情報共有システムを利用している患者家族スタッフの意識調査を元にバイタルサインやその他の患者情報を有効かつ適時適切に利活用するための方策について検討を行う。

2. 分科会メンバー数 4 人

3. 令和 6（2024）年度の活動内容と成果

1) これまで開発してきた高度医療機器アラーム管理 IoT システムを用いて、令和 6 年度は医療的ケア児のグループホーム移行支援や在宅医療環境での試験的利用などを行い、課題の抽出や日本重症心身障害学会で発表を行った。

2) 令和 6 年度は、我々が開発運用してきた患者情報共有システム（キッセイコムテック株式会社、トリニティケアクラウド）を利用している神経難病患者 11 名とメディカルスタッフに対しアンケート調査を行った。神経難病において、疾患、病期によってニーズは異なり、様々な場面において活用できる統合されたシステムが有用であることがわかり、発表を行った。

4. 令和 7（2025）年度の活動の目標と計画

令和 7 年度では主要メンバーの分科会活動継続が難しくなったため解散する。